

システム担当者のための データセンター活用ガイド

電算システム IDC 編集部

SOLVING CORPORATE ISSUES
WITH DATA CENTERS



企業のデジタル課題が見える 解決方法が分かる

システム運用 に役立つ活用事例

サーバ管理 は BCP・DR 対策が不可欠

セキュリティ対策 は何をすべきか

企業向けデータセンターを徹底解説



システム担当者さまへ

はじめに

本資料をお読み頂き、ありがとうございます。

近年、企業を取り巻くデジタル課題は、増え続けています。
「デジタル人材の不足」、「増え続ける業務データ」、
「いつ起きるかも知れない災害に向けた BCP（事業継続計画）」、
「中小企業も狙われるサイバー攻撃へのセキュリティ対策」など
枚挙にいとまがないほどです。

しかし、これまで馴染みがないために、他人ごとと考えてしまいがちでもあり、
気が付いたときには、手遅れとなるような事態は避けなくてはなりません。

本資料では、よく見られる企業のデジタル課題をご紹介します。
自社に当てはめていただき、身近に潜むデジタル課題にいち早く「気づく」ことが
重要と考えております。

すぐに実行できる解決方法も合わせて紹介しておりますので、
事業の支障にならないうちに、ご参考ください。

また、成長のための積極的な事業戦略のための施策として、
不可欠なデジタル技術を活用するための要素として、
データセンターの知識と施設をお役立てください。

人手不足 **クラウド化**
サイバーセキュリティ
サーバー管理 **増え続ける業務データ**
ネットワーク構築・最適化
コスト見直し **アウトソーシングによる
重点業務の促進**



デジタル技術を 企業のチカラに



IT コンシェルジュ

**企業に潜むデジタル課題に
「気づく」ことが重要です。**

データセンターの役割

データセンターは、情報機器をお預かりする専門施設であり、
情報処理の専門機関としてのサービス提供もあります。

DXをはじめ、企業成長のチカラに大きな役割を担うデジタル技術を支えることが、
データセンターの役割です。

今日のデジタル課題は、すぐに見えるものの他にも、
気づきにくいもの、わかりづらいものも多く存在します。
それらは、放っておくことで、大きな問題につなげてしまう危険性もあります。
問題が大きくなってから気が付いて対処する場合、
多大な損失や手遅れとなるケースも、少なくありません。

本資料を使って、自社の課題に気づき、解決策を見つけていただくことで、
「企業の発展」と「事業の成長」に導く手段のひとつに
データセンターをお役立てください。

**課題に気づけば、やるべきことがわかる。
さっそく部門戦略に盛り込もう！**



企業に潜むIT分野の課題

システム担当の 苦悩



集められた社内の要望・課題を
いっきに解決できないだろうか？



プロジェクトリーダー

クラウド化したいが
専門知識と実務経験
を持つ人材がいない



サーバー管理

確実にクラウドへ
移管したい



システム開発

サーバーのスペック
は後々拡張したい



購買担当

設備機器の購入費
を抑えたい



サーバーエンジニア

サーバーの運用
トラブルを防ぎたい



管理部

古いシステムを
使いたい



システム運用

バックアップが
出来ていない



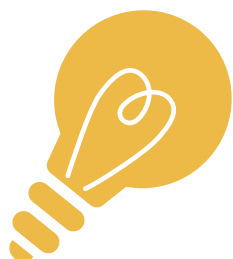
セキュリティ担当

セキュリティ対策
を徹底したい

これらの課題を
データセンターで解決できます



IT コンサルジュ



専門知識と実務経験を持つ 人材がいなくても クラウド化を行いたい



プロジェクトリーダー

現在のシステムを
クラウド化したいのですが、
詳しい人はいませんか？



事業管理者

人を増やさずに
何とかできないか？



システム担当

うちのメンバーでは
専門外だし
扱ったことがないな…

いまから専門知識と
経験のある人を探すにも
時間もないし
見つからないぞ…

クラウド化の設計に必要な主な専門知識

その1

セキュリティ



その2

ネットワーク



その3

冗長化



そのようなときは、
データセンターにご相談ください。



IT コンシェルジュ



データセンターで解決

01

専門知識と実務経験を持つ人材がいなくても
クラウド化を行いたい



IT コンサルジュ

クラウド化とは何か

上司からクラウド化やクラウド導入を命じられたが、何をして良いか分からないという悩みを良く耳にします。そもそもクラウド化とは何なのでしょう。

クラウド化とは、社内にあるシステムやサーバーを外部に出し、社内からネットワーク経由でシステムを利用することを指します。一度導入すれば便利なクラウドサービスですが、何から始めて良いか分からないという方向けに、比較的手軽に始められるクラウド化の事例は、NAS のクラウド化です。

NAS のクラウド化

企業の NAS 運用には一部問題があると考えております。NAS のハードディスクが冗長化されていなければ、ハードディスクが故障した場合、大切なデータが失われてしまいます。ハードディスクが冗長化されていても、部品が故障した場合はサポート窓口を確認して問合せをしたり、サポートが無ければ自前で機器を調達する等、運用の手間がかかります。

社内の NAS をクラウドストレージサービスへ移行することで以下のメリットが得られます。

NAS のクラウド移行は導入ハードルが低く、得られるメリットも大きいので、まず最初に取り組むべきクラウド化の事例だと言えます。

1. BCP 対策

外部のデータセンターにデータを保管できる

2. 管理工数の削減

設ハードウェアの故障、保守を気にしなくてよい

3. テレワーク促進

外出先やテレワーク環境からも接続できる

AWS の意外な落とし穴

※1

※1: AWS (Amazon Web Services) とは、Amazon Web Services 社により提供される世界的シェア 1 位のクラウドコンピューティングサービスです。

社内サーバーのリプレース時期に、一度は AWS を検討されたことがあるのではないのでしょうか。AWS は世界的に高いシェアがあり、使いこなせば便利なサービスですが、利用には以下 3 つの注意点があります。専門的な知識が必要となる敷居が高いサービスとなっております。3 つの注意点を考慮した上で、AWS 利用を検討していただきたいと思います。

弊社では AWS の 3 つの注意点を考慮しなくても良い、導入サポートが充実したクラウドサーバー

1. 従量課金制

AWS はサーバーを使用した分だけ使用料が発生する従量課金制となります。定額制ではありませんので、予算管理が難しいです。

2. 自社で設計・構築が必要

設計・構築にはネットワーク、セキュリティ、冗長化等の詳細な設定が必要となります。

3. サポートが別料金

AWS についての質問や、技術サポートを受けるにはサポート料金が必要となります。

定額
課金制

設計・構築
は技術者に
相談可能

導入
サポート
無料



AWS の 3 つの注意点を
考慮しなくても良いクラウドサーバーは
電算システムの
「BizGr@nd(ビズグラント) 」です。

解決



プロジェクトリーダー

スムーズに社内システムの
クラウド化が出来ました。



確実にクラウドへ移管したい



システム担当

クラウドに移行したいが…

業務システムは
古い OS を動作環境としている

サポート内容に不安がある

手間もかけられない…



サーバー管理

日々の責任ある業務から
手がはなせない

サーバー管理は業務内容が多く責任も重大

その1

複数台に対応

複数台あるサーバー
の保守期間を管理
しなければならない

その2

作業時間帯

業務への影響度に応じて
復旧のために夜間や休日
に会社に駆け付けなければ
ならない

その3

故障リスク

古い業務システムのリブ
レースに時間を割けず、
故障リスクを抱えながら
保守が終了したサーバー
を管理しなければならない

クラウドサーバーを利用し、
煩雑なサーバー管理をアウトソー
シングしましょう。





データセンターで解決

確実にクラウドへ移管したい

02



IT コンシェルジュ

クラウドサーバーを利用し、
煩雑なサーバー管理をアウトソーシングしましょう。

以下の図はクラウドサーバーを活用した課題解決の例となります。サポートが終了した Windows Server 2008 / 2008 R2 等のサーバーをクラウドサーバーへ丸ごと移行することで、業務システムを暫く延命させることが可能です。

オンプレサーバー



サポート切れ OS
Windows Server 2008
／ 2008 R2 等

- ・ OS のサポートが終了し、OS 刷新と併せてサーバのリプレイスが必要
- ・ OS 刷新のための開発コスト、工数を直ぐには割けない
- ・ 機器の保守も終了し、故障によるシステム停止の懸念

「P2V」で
丸ごと移行

クラウドサーバー



Hyper-V で OS の動作をサポート
Windows Server 2008
／ 2008 R2 等

- ・ クラウドだから機器保守の心配が要らない
- ・ OS の動作がサポートされた Hyper-V 環境で運用できる
- ・ オンプレ環境からそのまま移行可能なので手間がかからない

※Hyper-V がサポートするゲスト OS は、2021 年 3 月現在の情報となります。
※Windows Server 2008/2008 R2 は、クラウドサーバへの移行後もマイクロソフトによる各種パッチは適用されません。

クラウドサーバー「BizGr@nd(ビズグランド)」は、
有名どころである AWS や GCP と違い、
構築から運用まで幅広くサポートしていることが特徴です。



解決



サーバー管理に取られていた時間で
他の業務を進められる！





サーバーのスペック は後々拡張したい



システム開発

システムで想定される
ピーク時を基準値に
ある程度の余裕を持ちたい…

しかし、費用対効果の観点では
ロスを出せる限りなくしたい…

とにかく
導入費用を抑えたい…



システム担当

サーバーのサイジングは悩ましい

その1

CPU やメモリ、
ハードディスク
の性能の選定

その2

利用するネット
ワークの速度や
帯域の選定

その3

新規導入の場合、
過去の実績値が
不明

クラウド（仮想サーバー）の
利用が効果的です。



IT コンサルジュ



データセンターで解決

03

サーバーのスペックは
後々拡張したい



IT コンシェルジュ

クラウドサーバーを利用し、
サイジングの最適化をしましょう。

どの様にしてサイジングを行うのか

既存システムのリブレースでは、平常時やピーク時の状態を実際に稼働しているサーバのリソース推移から知ることができるため、高い精度でサイジングすることが可能ですが、新規導入の場合は、過去の実績値が手元に無いため、難しいのが現実です。

一般的には、平常時とピーク時などいくつかのシステム利用状況を想定して各スペックを見積り、ユーザー数の増加や長期的なシステムの運用計画を考慮に入れながら、スペックを決めていきます。

基本的にシステムの能力は、ピーク時に対応できることを前提にサイジングする必要がありますが、物理サーバにおいてはトラブル時に求められる即効性のある対処が難しいため、大きめのスペックで見積もられる傾向が強く現れます。また、不測の事態に対応するためのバックアップ用サーバーの用意、ディスクの RAID 構成によるデータの保護、ネットワークの冗長化などは、システムやサービスの安定運用には不可欠な要素です。可用性に関しても、サイジングの際に見積りする必要があります。

クラウドの決め手はサイジングの最適化にある

前述の様にオンプレミスの物理サーバ環境の場合、余裕を持ったサイジングが必要なため、過剰なスペックがしばしば問題になります。サイジングの課題を解決するには、柔軟かつ迅速にリソースの追加が可能なクラウド（仮想サーバ）の利用が効果的です。

新規システムの立ち上げ時も運用実績に合わせてスケールアップ・スケールアウトできるほか、ピーク時に増やしすぎたリソースのダウンサイジングも簡単に実行できますので、サイジングの失敗による過剰投資やアンダーサイジングによるパフォーマンスの劣化を回避することができます。

こうしたサイジングの最適化が図れる点が、物理環境との大きな違いであり、クラウドの大きなメリットと言えます。無償トライアル期間を上手く活用することで、システムの安定稼働に最適なリソースを決定し、費用対効果の観点においても最適解を導き出すことが期待できます。

おすすめの仮想サーバーのサービス「BizGr@nd」

仮想化のメリットは分かったけど自社で仮想サーバーを構築、運用できる技術者がいないという事はございませんでしょうか。そのような場合はレンタルサーバーやクラウドサーバーのサービスのご利用をお勧めいたします。

上記のサービスは仮想化の技術が使われておりまして、技術者がいない場合でも手軽に仮想サーバーの仕組みが利用できる事が特徴です。

弊社の仮想サーバーの仕組みを使用したサービスは、「BizGr@nd」です。特徴はリソース確保型という点です。よくあるベストエフォート型のレンタルサーバーでは、物理サーバのリソースを沢山の仮想マシンで共有するため、利用者が集中する時間帯にリソースが逼迫してシステムの動作が遅くなったり、不安定な状態に陥る場合があります。

BizGr@nd は稼働する仮想マシンを最適な台数に限定することで、いつでも利用いただいてもシステムの動作が安定し、自社専用のサーバーと同様の感覚でご利用いただけることが特徴です。更に、BizGr@nd は高い免震性能を持つ国内の自社データセンターで運用されており、BCP 対策にもおすすめです。

解決



無料トライアルで
実際と同じ動作状態が
よくわかる！

最適なサイジングで
ロスのない見積額も
導き出せる！





設備機器の購入費を抑えたい



システム担当

新しいシステムを導入したいが…
サーバー数も多くなった…



購買担当

システムのコストが
膨らみ続けています…

物理サーバーにかかるコスト

その1

高額な購入費

その2

リソース変更
にはコストも
手間も必要

その3

故障の備えと
保守・メンテ
ナンス費

仮想サーバーでしたら
これらの心配もありません。





データセンターで解決

04

サーバーのスペックは
後々拡張したい



IT コンシェルジュ

事業の成長に合わせて、サーバーリソースを変更できる
仮想サーバーは、コストパフォーマンスに優れています。

仮想サーバーでサーバーの購入コストを抑える

OS 環境などのシステム条件の違いからシステムごとに分ける必要があるケースでも、仮想サーバーを使用することで、ひとつの物理サーバに集約することができます。

また、仮想サーバーではリソースを増減させることができるため、状況に合わせて変更することで、ロスを生じさせることはありません。

仮想サーバー BizGr@nd（ビズグランド）とは

BizGr@nd(ビズグランド) はパフォーマンス確保型のクラウドサーバーです。お客様専用の物理機器と接続可能なハイブリッド構成、オンプレミスから P2V(※1) によるシステム移行も可能です。性能とコストのバランスが取れた基本のクラウドサーバーのサービスとなります。

※1 Physical-to-Virtual あるコンピュータ上で稼働しているシステムを丸ごと他のシステムに移転するマイグレーション技術

BizGr@nd Light（ビズグランド ライト）でさらに低コスト

BizGr@nd をリソース共有型にすることで、利用料を抑えたコスト重視のクラウドサーバーです。高いサーバーパフォーマンスを必要としないシステムに適しています。

事業の海外展開には BizGr@nd+（ビズグランド プラス）

NTT コミュニケーションズが保有する世界 30 拠点以上のデータセンターを活用したクラウドサーバーです (ECL)(※2)。海外事業に携わるお客様に有効活用いただけます。

※2 Enterprise Cloud NTT コミュニケーションズが提供するハイブリッドクラウドサービス。

仮想サーバー BizGr@nd(ビズグランド)
には無償トライアルがあります。
まずは試してみてください。



解決

コストが
ぐっと抑えられました！



事業の成長に合わせてられ、
費用対効果もいいね





サーバーの運用 トラブルを防ぎたい



システム担当

サーバーのトラブルが増えている…どうにか
ならないだろうか…



サーバーエンジニア

検出できない事象から、
障害が引き起こされていて…

よくあるサーバのトラブル

ケース1

サーバリソースが 枯渇してプロセス が停止してしまう

稼働開始当初はリソースに余裕があったものの、データ量が増えることを見越した設計になっておらず、稼働を続けるうちにリソースが不足してしまった…。

ケース2

死活監視では検出 できないサーバの 処理能力低下

サーバの処理能力が著しく低下している状態であっても、pingなどのネットワークコマンドには応答が返ってくるため、正常判定されてしまう。何らかの障害によって処理性能が低下していたことに気付くことができない…。

御社の状況をデータセンターに
相談してみましょう。





データセンターで解決

05

サーバーの運用
トラブルを防ぎたい



IT コンシェルジュ

システム運用のトラブルを未然に防ぐには、
サーバーのリソース監視が役立ちます。

サーバのリソース監視とは

サーバのリソース（VP、メモリ、ディスク）の状態を気せず運用を続けていくと、ある日突然サーバの動作が遅くなったり、サーバが固まるといった困った事象が実際に発生します。

このようなトラブルを未然に防ぐために、サーバのリソース監視によって、稼働状態を取得します。主な目的として、①障害の予防と②トラブル時の原因特定の2つが挙げられます。

1. 障害の予防

日頃からサーバのリソース消費量の推移を把握しておけば、イレギュラーな高負荷が発生した際にも異常に気付きやすくなります。また、リソース状況の長期的な変化に注目することで、将来起こり得る障害を事前に予測し、対応することも可能です。例えば、半年間でディスクの使用率が平均 7% 増加しているという統計は、リソースが逼迫する前にディスクの容量追加するタイミングを知らせる契機となります。

2. トラブル時の原因特定

サーバの障害という不測の事態では、障害箇所の特定はもちろんのこと、そもそも何が起きているのかすら正確に把握できない状況に陥るのではないのでしょうか。そんな手がかりのない状態で、ただやみくもに復旧作業を行うのは非効率です。その点、サーバのリソース監視をしていれば、CPU の負荷やメモリの使用量等において、障害発生前後の状況を数値やグラフで確認できるため、障害原因を調査する手がかりを得ることができます。

リソース監視サービスの利用できる
クラウドサーバがおすすめです。



解決



サーバー障害が起きる前に
予兆を確認できるよう
なった！これで余裕をもって
手が打てるぞ！

システムトラブルを
未然に防げるように
なれば、メンバーの
疲弊もなくせる…





古いシステムを使いたい



システム担当

業務システムが正常に動く
OS のサポートが終了…
システムをリプレイスしたいが…
人も予算も足りない…



管理部

新しいシステムではなく
これまでの業務システムを
使い続けることはできないの？

システムリプレイスが困難な要因

ケース1

予算が
確保できない

ケース2

技術者が不在

P2V を活用して、
古い OS や業務システムの
延命を実現できます。





データセンターで解決

古いシステムを使いたい

06



IT コンシェルジュ

古い OS や業務システムを
使い続けられる環境を P2V で実現できます。

サポート切れ OS の延命に適応可能な P2V

様々な要因によりシステムリプレースが困難な場合があります。予算が確保できない、技術者が不在といった要因により、仕方なく保守切れのハードウェアや、サポートが終了した OS を使い続けているケースがあるのではないのでしょうか。リプレースしたくても進まない、そんなケースに P2V が活用できます。

P2V による仮想化環境へのシステム移行

P2V とは Physical to Virtual の省略表記で、オンプレミスの物理サーバー上で稼働しているシステムを、クラウド上の仮想化環境へ移行することをいいます。

P2V は稼働するサーバー上で構築した OS や業務アプリケーション、各種設定情報などを丸ごと移行することが可能なため、移行に要する手間やコストを削減できる点で、新規構築よりも取り入れ易い手法といえます。

システムを「延命」すること以外の P2V の活用方法

業務システムの延命以外にも P2V の活用方法があります。サーバー統合の他、テストやトラブルシューティング時、あるいは物理サーバーのバックアップを仮想マシンとして取得するといったディザスタリカバリ用途でも使われます。

但し、システムの「延命」による、問題を先送りすることへの両論があります。将来の計画と合わせて、上手に利用しましょう。

まずは現在のシステム状況を
データセンターに相談してみましょう。



解決

使い慣れた
業務システムで
仕事が続けられる！



OS のサポート期限に左右されず
自社のタイミングで
リプレース時期を決められる！





バックアップが出来ていない



システム担当

データ量も増えてきて
保存先の容量も残り少ない…
これではバックアップ出来ない



システム運用

忙しくて…
バックアップのための
時間が取れない…

データ消失の主な原因

人的なミス

ハードウェア
の故障

ソフトウェア
による障害

自然災害

ウイルス感染

バックアップをしない3つのリスク

その1

事業停止の
リスク

その2

競争力低下
のリスク

その3

企業の信用
を失うリスク

特に企業にとって
データのバックアップは
重要です。





データセンターで解決

バックアップが出来ていない

07



IT コンシェルジュ

バックアップをしないことは非常に危険です。
代表的な手法をご紹介します。

バックアップの手法

データバックアップ

ファイルやフォルダをコピーし、コピーしたデータを別の場所に保存する手法です。
シンプルにデータをバックアップする為、データの復元が簡単です。ただし OS の設定情報などをバックアップすることはできません。

イメージバックアップ

ディスク内のデータ (= イメージデータ) を丸ごとバックアップする手法です。OS、アプリ、ネットワークの設定情報などまとめてバックアップされるので、システムが稼働しているサーバーなどで有効な手法です。ただし特定のファイルだけを復元することはできず、全てのデータを復元することになります。

バックアップデータの保存先

例えばサーバーのバックアップデータを同じ建物のNASに保存していた場合、地震などの災害によってサーバー・NASがともに故障してデータが全消失してしまう可能性があります。

このようなリスクを回避する為に、BCP(事業継続計画)ではバックアップのデータを遠隔地に保存することが推奨されます。外部の拠点にデータを保存したり、クラウドにデータを保存する、といった対応が一般的です。

いいとこどりの最強バックアップ

電算システムのデータセンターでは「ファイル・フォルダ単位の復元が可能」、「イメージデータも復元できる」、「バックアップデータはクラウドに保存」することができる、幾つもの要件にお応えできるバックアップの仕組みを構築することが可能です。興味がある方は、まずは無料相談の窓口を利用してみましょう。

まずは運用状況のデータ量を確認して
データセンターに相談してみましょう。



解決



ファイルやフォルダ
単位でも
復元が出来て便利！

保存先の容量を
気に掛ける心配も
なくなった！





セキュリティ対策を徹底したい



セキュリティ担当

身近な取引先でも、
コンピュータウイルスや
不正アクセスの被害が
出ている…



システム担当

セキュリティ事故は
何とか避けたい…
対策はどうすればよいのか…

ウイルス感染による被害例

ケース1

EMOTET

Emotet は、情報の窃取に加え更に他のウイルスへの感染のために悪用されるウイルスです。悪意のある者によって、不正なメール（攻撃メール）に添付される等して、感染の拡大を試みます。

ケース2

IcedID

IcedID の事例は、返信を装った日本語のメールで、マクロが含まれた Word 文書ファイルがパスワード付き ZIP ファイルとして添付され、マクロを有効にすると、ウイルスがパソコンに感染してしまいます。

標的型攻撃メールに対して
注意するポイントをご紹介します。





データセンターで解決

セキュリティ対策を徹底したい

08



IT コンシェルジュ

感染ルートの傾向から対策を考えましょう。

標的型攻撃メールへの対策ポイント

「EMOTET」や「IcedID」はターゲットを特定の組織やユーザー層に絞って行うサイバー攻撃である「標的型攻撃」に分類されます。前述のとおりその手口は巧妙で、正規のメールを装い、怪しむことなく添付ファイルを開封してしまうことは十分あり得ることです。

まず、侵入経路となるメールとその添付ファイルについて正当性を判断し、不審なものは開かないようにする心がけが必要です。特にパスワード付き圧縮ファイルはセキュリティ製品の検知を回避する手段ともなるため、注意が必要です。

ただし「返信型」のような巧妙な騙しの手口もあるため、メールだけでは不審に気づけない場合もあると思われます。もし、正規のメールと誤解して添付ファイルを解凍し、開いてしまった場合でも、Officeのマクロ機能が有効化されなければ不正活動は開始されません。「マクロ無効化」のセキュリティ警告表示があった場合にはいったん立ち止まり、「コンテンツの有効化」ボタンはクリックしない様にします。一旦ファイルを閉じてから、メールとファイルの正当性を再確認することで、ウイルス感染の被害を防ぐことが可能です。

標的型攻撃メールと注意する時の着眼点を幾つかご紹介します。

- メール本文に日本語では使用されない漢字（繁体字、簡体字）が使われている
- 差出人のメールアドレスとメール本文の署名に記載されたメールアドレスが異なる
- 添付ファイルの拡張子が偽装されている
例）ファイル拡張子の前に大量の空白文字が挿入されている
- 添付ファイルのアイコンが偽装されている
例）実行形式ファイルなのに文書ファイルやフォルダのアイコンとなっている

攻撃メールは、組織の複数のメールアドレスに届くことがほとんどです。そのため、攻撃メールを発見した場合は、発見者が自分に届いたメールだけを削除するだけでは対応として不十分です。例えば、同じ標的型攻撃メールが5人に届いたとして、4人が気づき、1人が気づかずにウイルスに感染してしまった場合、組織としては被害が発生してしまいますので、一人ひとりが注意すると共に、組織内で情報共有することが重要となります。

電算システムのデータセンターは、
セキュリティの無料診断も行っています。



解決



セキュリティの
注意事項を
社内に周知しよう！

セキュリティサービス
を扱うデータセンターに
相談できるのも心強い！



事業発展と課題解決に向けて

まとめ

この度は、本資料を最後までご覧いただきまして、誠にありがとうございます。

デジタルを活用して事業推進を行ううえで、
データセンターの活用イメージを、ご理解いただくことはできましたでしょうか。
この資料が、企業の課題解決や成長のヒントとして、
一助になりましたら、たいへん光栄でございます。

今回、紹介しきれなかった事例も、まだまだ多くございます。

企業の個々の状況に合わせた最適な解決方法や選定などにつきましても、
さらに詳しく質問されたい企業様はご相談もお受けしております。

「自社の IT 環境を診断してほしい」、
「複数の課題がある、何から始めたらよいかわからない」
など、他にも気になることがございましたら
わかりやすく、解決できる方法として、
データセンターの「無料相談」をご活用ください。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

株式会社電算システム

データセンターによる無料相談

下記 Web サイトのお問い合わせから「無料相談」をご利用ください。



<https://www.dsk-idc.jp>



会社名

株式会社電算システム

会社案内

1967年に岐阜県で創業して以来、独立系総合型情報処理サービス企業として、情報処理サービス事業と収納代行サービス事業の2つの分野で事業を展開しています。官公庁をはじめ、製造・流通・金融証券などの顧客層に対して、企画から設計・開発・運用管理まで一貫して取り組み、ベストソリューションを提供しています。

お問い合わせ窓口

岐阜本社 ☎501-6196 岐阜県岐阜市日置江1丁目58番地
TEL 058-279-3481 FAX 058-279-3487

東京本社 ☎104-0032 東京都中央区八丁堀2丁目20番8号八丁堀綜通ビル
TEL 03-3206-1780 FAX 03-3206-1774

名古屋支社 ☎460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番1号十六銀行名古屋ビル12階
TEL 052-961-3690 FAX 052-961-3631

関連 URL <https://www.densan-s.co.jp>
<https://www.dsk-idc.jp>